

ポリポットを用いた高糖度トマト夏季養液栽培マニュアル（図版）

1. 育苗

- ・4月下旬～5月下旬に購入した200穴セル成型苗を12cm径のポリポットへ鉢上げし、定植（第1花房開花期）までは大玉トマト栽培と同様な管理で育苗する（写真1）。



写真1 育苗

2. 定植

- ・5月下旬～6月上旬に21cm径ポリポットに約4Lの培土を詰め、ポット苗を定植する（写真2）。
- ・栽植密度は5000株/10a程度とする（間口6mハウスの場合は3ベットの配置し、1ベットには株間20cmで密接してポットを2列並べる）（写真3）。



写真2 定植



写真3 栽培ベット

3. 給液管理

1) 定植後3日前後から培養液を施用する。

- ・初期の培養液濃度を窒素レベルで「200～300ppm」に設定する。
- ・水力式定率混入タイプの液肥混入器等を用いた給液装置を作成する（写真4）。
- ・点滴灌水チューブにより1回の給液量を150mL程度に設定し、1日の給液量は朝、昼、2回の「合計300mL程度」を基本とする（写真5）。



写真4 給液装置



写真5 点滴灌水チューブ

- ・栽培期間を通して主枝先端の上位2～4葉が萎れないように給液回数を0～4回（0～600mL程度）で調節する。給液開始の目安となる植物体の状態は写真6参照。



写真6 給液開始点の目安となる植物体の状態：左上図のように主枝先端がぐったりと萎れないように、上位2～4葉が水分を失い、しなだれ始めた頃に給液する。

- ・マルチフィルム等を用いてハウス土壌への培養液の漏水を防止する（図 1）。また、廃液が発生した場合は適宜回収、除去し、適切に処分する。

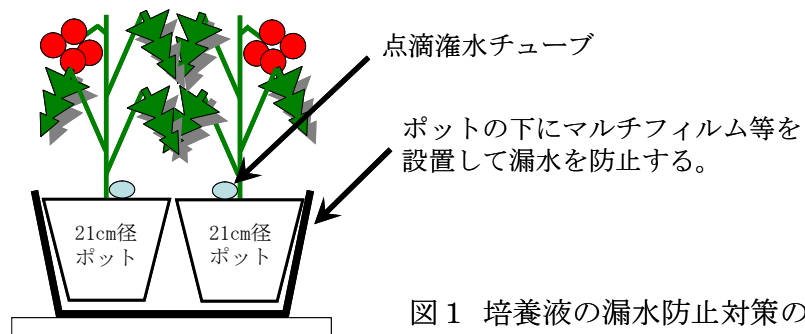


図 1 培養液の漏水防止対策の例

2) 第 1 花房開花後 10 日前後から塩分ストレス処理を開始する。

- ・培養液に 0.1%濃度になるように食塩を添加し、植物体に塩分ストレスを付与する。

3) 第 2 花房開花期に培養液濃度を変更する。

- ・草勢が強くなるように培養液濃度を窒素レベルで「100ppm」に変更する。

4. 整枝法

1) 仕立て法

- ・主枝 1 本仕立て、直立誘引により第 5 果房まで収穫する（写真 7）。芽かき、葉かき、防除などの管理作業は随時行う。



写真 7 仕立て法

2) 側枝葉利用技術

- ・果実 Brix の安定化 (平均 8.0%以上) を図るために各花房直下の側枝葉を 2 枚利用して葉面積を増やす (図 2、写真 8)。

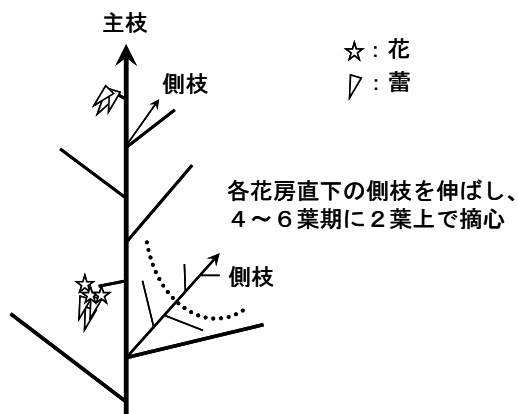


図 2 側枝葉利用技術



写真 8 花房直下の側枝葉
(手で触れている葉が側枝葉)

3) 摘心

- ・第 5 花房上に 2 葉残して摘心する。

5. 開花期ホルモン処理

- ・各花房で 3 つの花が開花した頃にホルモン処理を行う。

6. 収穫

- ・7月中旬～10月中旬にかけて裂果前に収穫する (部分着色果であっても収穫可能)。特に第 4～5 果房の果実は早期 (「CF 桃太郎ファイト」の場合は写真 9 の果皮色指数 2～3 に該当) に裂果するので注意する。



写真 9 果皮色 指数 1 指数 3 指数 5